

フリーテキスト講座の活用方法

現在（2015年5月26日）過去の有料講座のチェックを行っています。チェック終了分から随時このページのサムネイルの下から視聴できるようになります。

例えば、「デリバティブとヘッジ会計」であれば、このように表示されます。はじめて視聴される方は①→②と視聴して下さい。既に①の部分を視聴されている方は②から学習して下さい。

①			
②	part2 * 5/29 UP再編集済		
	part2 * 5/29 UP再編集済	part2 * 5/29 UP再編集済	part2 * 5/29 UP再編集済

<2015年7月全経上級を学習されている方>

全経簿記上級の特徴から学習方法を考える

①商業簿記では連結は「仕訳問題」での出題が中心です。過去に連結精算表が問われた事がありますが、基本的にはP/L・B/S作成や決算3勘定が中心なので幅広い論点の学習が必要になります。逆に言うと連結は過去問を中心に仕訳ができる状態にしておけば十分でしょう。また日商簿記1級では問われない帳簿組織（英米式・大陸式）の理論的背景も問われますので、過去問を中心にしっかりと学習をしておいて下さい。

②会計学では、理論学習が中心です。正誤問題はパターンが決まっています。ネットスクール社の過去問題は会計理論マスタがついているのでおすすめです。また記述問題は最近の会計基準や伝統論でも重要な論点（P/L原則・B/S原則・引当金・繰延資産）を中心に出題される傾向があります。記述問題は難しく感じますが「全経上級」はかなり甘い採点をしてくれます。考え方があっていれば高得点も期待できますので動画の理論部分は「ふーん、なるほど」という感じで確認しておいて下さい。

③工業簿記

幅広い論点から出題されます。以前は総合原価計算の「度外視・非度外視」「累加・非累加」などの比較問題が頻出でしたが、最近是个別・部門・総合・標準が均等に出題されています。ただ過去問をしっかり理解すれば、ほとんど同じ論点が問われますので、フリー動画の視聴後は過去問をしっかり確認しておく事をおすすめします。また日商簿記1級ではほとんど問われない本社工場会計もたまに出題されます。

④原価計算

直接原価計算（CVP分析）と設備投資の意思決定からの出題がほとんどです。またABCや品質原価計算、ライフサイクルコストリング等も問われます。しっかり確認しておきましょう。

**試験の直前期には過去問ゼミもご活用下さい
(予想論点分1動画は無料公開します)**

<2015年11月の日商簿記1級の学習をされている方>

①商業簿記では「決算整理後試算表」「損益計算書」「貸借対照表」「連結会計」を中心に
出題されます。本支店会計もたまに問われますが、本支店論点以外で15点程度は取れる
ようになっていきます。従って頻出の決算整理事項を学習する事が重要です。

②会計学では、理論は5~10点程度で正誤などが中心なので全経ほど力を入れる必要は
ありません。ただ、たまに記述が求められますので全経上級の問題を確認しておく
と理論点で稼ぐことが可能になります。個別問題では難易度の高い問題が出題される
ケース（第138回の包括利益計算書等）もありますが、配点調整されるので深入りは禁
物です。

③工業簿記

以前は標準原価計算の難問ばかりでしたが、最近では総合原価計算のシンプルな問題
（137回等）も出題されています。個別から総合、標準の総合的な理解が必要になりま
す。ただ、突然難問を出題してくる可能性もありますので、120回代の過去問も確認は
しておいて下さい（ただ、これも深入りの必要はありません）

④原価計算

基本的には意思決定会計や予算実績差異分析を含む直接原価計算の論点が中心です。
125回のような超難問のケースもあります（この時は10問中5問で25点中の19点の
傾斜採点がありました。私自身の受験結果なので間違いありません）が、一般的には
難問は誰にとっても難問なので「取れるところを取る戦術」が必要です。

試験の直前期には過去問ゼミもご活用下さい
（予想論点分1動画は無料公開します）

平成27年5月29日